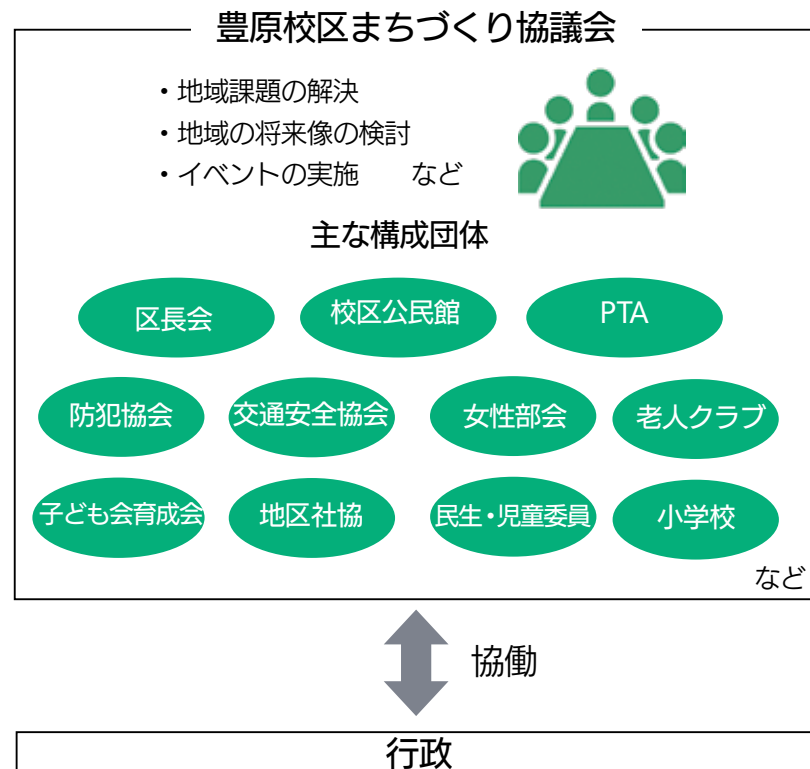


豊原校区のまちづくり協議会のしくみ



自分たちの地域は自分たちでつくる 豊原校区まちづくり協議会設立

市は、豊原校区をモデルに、これから市内全域で校区まちづくりを進める計画です。校区まちづくりには、校区住民一人一人の参加が欠かせません。「自分たちの地域は自分たちでつくる」その意識が、これからのまちづくりには大切です。

校区まちづくりを市内全域に

準備委員会を経て、豊原校区は市内で初めての校区まちづくり協議会を設立。8月27日に行われた設立総会では、規約や、活動計画などが承認され、会長に志岐龍己さんを選出しました。同協議会は、区長会や校区公民館、PTAなどで構成。現在の各団体の活動は継続して行い、校区全体で活動をした方が効果的なものなどは校区まちづくり協議会として活動します。

8月27日、ついに市内で初めての校区まちづくり協議会が設立

準備委員会を発足させました。準備委員会では校区の将来像を考え、課題を再認識するため、ワークショップを行い議論を重ねました。議論を重ねる中で、豊原校区の将来のビジョンは「心豊かな住民による、つながりがあるふるさと」に決定。「豊原はみんな大きな家族」というスローガンを掲げ、子育て世帯や単身者、障がい者などを地域全体で見守り、支え合う校区にするための計画をまとめました。

準備委員会で議論を重ねるビジョンなどを策定

市は、豊原校区を、平成29年度から校区まちづくり事業の最初のモデル校区に設定。協議会設立に向けてまず準備を進めています。

少子高齢化による地域活動の担い手の高齢化や独りで暮らす高齢者の増加、地域のつながりの希薄化など地域の課題は複雑化しています。そのような課題を行政や家族、行政区だけで解決するのが難しくなっている中、地域の住民が団結し、協力し合うことはとても重要です。そこで市は、地域コミュニティを活性化しようとして平成27年度から校区まちづくり推進事業を進めています。

地域の課題を解決するために校区まちづくりを推進

小学校区単位で住民が集まり地域の未来を考え、身近な課題を解決していく「校区まちづくり」。今回、豊原校区が市内で初めて校区まちづくり協議会を設立しました。「なぜ今、校区まちづくりが必要なのか」。その背景や目指す地域の将来像などを取り上げます。

【問】市総務課市民協働推進係（☎77・8419）



豊原校区まちづくり協議会
志岐 龍己 会長

楽しく住みやすいと自慢できる地域に

豊原校区にあるさまざまな問題を解決していく場がこの豊原校区まちづくり協議会です。各団体や人と人との結束が地域コミュニティの活性化に結びつきます。多くの人にまちづくりに参加してもらえよう、地域の要望に応えながら活動の輪を広げていきたいです。特に、近年は団体の役員の高齢化が課題。若い人に参加してもらうことが重要です。5年後、10年後のために次の担い手の育成にも力を入れていこうと思います。

校区住民の皆さんが楽しく住みやすいと自慢できる校区を目標に、また、市で初めての校区まちづくり協議会を校区住民の皆さんと団結して他の校区のお手本となるものにしていきたいです。

地域の課題

- ・参加者が減り、地域の活動や行事が維持できない
- ・近所付き合いが減った
- ・災害時に近所の人と助け合えるか不安
- ・PTA だけだと祭りやイベントの運営ができない
- ・知り合いが少なく、1人で子育てをするのが不安



校区まちづくりが進むと…

具体的な効果

- ・住民同士が協力、連携することで、よりよい地域へ向けた相乗効果が期待できる
- ・住民同士のつながりが増えることで、災害時や子育てなどの不安が解消される
- ・幅広い世代が協力することで、5年後、10年後を見据えた持続可能な活動が展開できる

